

令和6年度 農山漁村振興交付金(都市農業機能発揮対策)
事業実施主体 評価一覧

1. 事業評価の実施

令和6年度に実施された「農山漁村振興交付金(都市農業機能発揮対策)」の事業について、「農山漁村振興交付金(都市農業機能発揮対策)実施要領」(平成30年3月28日付け29農振第2293号)第15の3の規定に基づき、評価を行ったので、その結果を公表する。

2. 事業評価結果の総括

令和6年度に交付金事業を実施した16地区について、取組の実施状況、成果等を総合的に評価した。
その結果、優良と認められる地区が16地区との評価結果となった。
また、今年度の評価対象ではないが昨年度に重点指導の対象となっていた1地区について、重点指導の結果を評価した。

3. 各地区の評価結果

17件(うち1地区は、今年度評価対象ではないが昨年度重点指導となっていた地区)

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階								評価	評価コメント
				R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8		
本省	大阪府	南河内郡	シンスリー株式会社			●	●	■▼	▲				【令和5年度の事業評価でC評価:令和6年度に指導完了】 令和6年度は、昨年までの実施内容を踏まえ、地元企業や農家と連携して、開催時期に応じた青果品を持ち帰り用とその場で食する商品用としてあらかじめ準備するなど、工夫した取組により、小規模マルシェの開催数を増やすことができた。また、加工品の製造・販売を開始したことにより、より地域に根差した企業になったと言えることから、取組の改善が図られたといえる。
本省	神奈川県	小田原市	合同会社 小田原かなごてファーム				●	●	■			A	①取組の実施状況がA評価、②事業実績がB評価、③事業実施体制がA評価であり、A評価が半数以上であり、かつ、C評価がないため総合評価をA評価とする。 マルシェを小田原市で開催することにより、農業者と消費者との交流を図り、地元農作物の魅力を十分に発信できたと思われる。また、教育プログラムとして、農業体験や自然栽培塾等の実地研修を行うことにより地元住民に農業や環境意識に対する理解醸成が進んだと思われる。 今後も事業計画に基づく取組が効率的かつ円滑に実施され、事業が発展することを期待したい。

本省	神奈川県	座間市	小田急電鉄株式会社			●	●	■	A	①取組の実施状況がA評価、②事業実績がA評価、③事業実施体制がA評価であり、全てA評価となっているため、総合的評価をA評価とする。 神奈川県座間市と連携し、参加市民の家庭の生ごみを堆肥化し、効率的に回収・運搬した上で市内の協力農家において農産物の栽培に活用することで、ごみの資源化・減量化が実現され、有機農業の普及につながったと思われる。また、参加市民を交えた説明会や交流会、終了の会を開催し、活発な意見交換や交流を行うことで都市農業への理解醸成が進んだと思われる。 今後も事業計画に基づく取組が効率的かつ円滑に実施され、事業が発展することを期待したい。
本省	東京都	国立市 国分寺市 三鷹市	株式会社エマリコくにたち			●	●	■	A	①取組の実施状況がA評価、②事業実績がB評価、③事業実施体制がA評価であり、A評価が半数以上であり、かつ、C評価がないため総合的評価をA評価とする。 令和4年度以降、一般市民を対象に援農ボランティアなど地元農業を応援する中間支援層の育成(消費者プログラム)、都市部で有機農業等を実践する農家の圃場実習(農業者プログラム)等を開催し、地域間での都市農業の維持に向けた活動を積極的に行った。 今後も事業計画に基づく取組が効率的かつ円滑に実施され、事業が発展することを期待したい。
本省	東京都	千代田区	一般財団法人 都市農地活用支援センター			●	●	■	A	①取組の実施状況がA評価、②事業実績がA評価、③事業実施体制がA評価であり、全てA評価となっているため、総合的評価をA評価とする。 都市農業の先進事例を収集・分析の上、事例集を作成し普及啓発活動をするためのシンポジウム、講演会等を実施した。こうした取組によりアンケート結果でも高い評価を得られたことから、都市農業への理解醸成が進んだと思われる。 今後も事業計画に基づく取組が効率的かつ円滑に実施され、事業が発展することを期待したい。

本省	愛知県	日進市	日進畑の交流拠点づくり協議会					●	●	□	A	①取組の実施状況がA評価、②事業実績がA評価、③事業実施体制がA評価であり、全てA評価となっているため、総合的評価をA評価とする。 都市住民に対し、有機野菜の栽培体験会及び摘み取り農園で野菜の収穫イベントを実施したことにより、都市農業への理解醸成が進んだと思われる。 今後も事業計画に基づく取組が効率的かつ円滑に実施され、事業が発展することを期待したい。
本省	福島県	郡山市	一般社団法人食大学					●	●	□	A	①取組の実施状況がA評価、②事業実績がA評価、③事業実施体制がA評価であり、全てA評価となっているため、総合的評価をA評価とする。 定期的にマルシェを実施することにより、農家と都市住民との交流の機会を創出し、都市農業への理解醸成が進んだと思われる。 今後も事業計画に基づく取組が効率的かつ円滑に実施され、事業が発展することを期待したい。
本省	愛知県	知立市	特定非営利活動法人かきつ畑					●	●	□	A	①取組の実施状況がA評価、②事業実績がA評価、③事業実施体制がA評価であり、全てA評価となっているため、総合的評価をA評価とする。 農業者と都市住民の交流の機会を創出し、落ち葉等を活用した堆肥化事業等による有機農業の普及やマルシェ・イベント等を開催したことから、都市農業への理解醸成が進んだと思われる。 今後も事業計画に基づく取組が効率的かつ円滑に実施され、事業が発展することを期待したい。
本省	大阪府	和泉市	株式会社エムスクエア・ラボ					●	●	□	A	①取組の実施状況がA評価、②事業実績がA評価、③事業実施体制がA評価であり、全てA評価となっているため、総合的評価をA評価とする。 地元加工業者・教育委員会・市役所など、産学官の連携による担い手育成に向けた取組みやマルシェの実施等により、都市農業者と都市住民の交流の機会を創出し、都市農業への理解醸成が進んだと思われる。 今後も事業計画に基づく取組が効率的かつ円滑に実施され、事業が発展することを期待したい。

本省	東京都	江東区	農と親しみ江東区の共生社会を考える協議会					●	●	□	A	①取組の実施状況がA評価、②事業実績がA評価、③事業実施体制がA評価であり、全てA評価となっているため、総合的評価をA評価とする。 都市中心部に農的空間を創出したことにより、都市住民の都市農業への理解醸成が進んだと思われる。 今後も事業計画に基づく取組が効率的かつ円滑に実施され、事業が発展することを期待したい。
本省	東京都	日野市	株式会社 ネイバーズファーム					●	●	□	A	①取組の実施状況がA評価、②事業実績がA評価、③事業実施体制がA評価であり、全てA評価となっているため、総合的評価をA評価とする。 マルシェ等のイベントの実施により、都市農業者と都市住民の交流の機会創出を行い、地域産品のPRや都市農業者と消費者である都市住民の交流が実現したと思われる。 今後も事業計画に基づく取組が効率的かつ円滑に実施され、事業が発展することを期待したい。
本省	大阪府	泉南市	一般社団法人 グリーンカラー					●	●	□	A	①取組の実施状況がB評価、②事業実績がA評価、③事業実施体制がA評価であり、A評価が半数以上であり、かつ、C評価がないため総合的評価をA評価とする。 都市公園にてマルシェを開催することにより、多数の都市住民に都市農業や有機農業等への理解醸成が進んだと思われる。 今後も事業計画に基づく取組が効率的かつ円滑に実施され、事業が発展することを期待したい。
本省	愛媛県	松山市 今治市	「生産緑地制度」に関する 共同研究会					●	●	□	A	①取組の実施状況がA評価、②事業実績がA評価、③事業実施体制がA評価であり、全てA評価となっているため、総合的評価をA評価とする。 愛知県松山市・今治市を中心に、生産緑地制度導入に向け管内の農業者に対し制度の説明会等を実施するとともに、行政（松山市）とも連携し、県内初の生産緑地制度の導入を支援するなど、都市農業の振興や都市農地保全が進んだと思われる。 今後も事業計画に基づく取組が効率的かつ円滑に実施され、事業が発展することを期待したい。

本省	福岡県 東京都	福岡市 渋谷区 江東区 調布市	ローカルフードサイクリング 株式会社						●	○	□	A	①取組の実施状況がA評価、②事業実績がA評価、③事業実施体制がA評価であり、全てA評価となっているため、総合的評価をA評価とする。 4つのモデル拠点での循環型コミュニティガーデンの活動を通して、有機農業の理解と実践を都市部に広げることにより、都市住民の農業への理解醸成が進んだと思われる。 今後も事業計画に基づく取組が効率的かつ円滑に実施され、事業が発展することを期待したい。
本省	大阪府	阪南市	一般社団法人ハンナンテ						●	○	□	A	①取組の実施状況がA評価、②事業実績がA評価、③事業実施体制がA評価であり、全てA評価となっているため、総合的評価をA評価とする。 植樹祭や茶摘み体験の実施等、都市農業者と都市住民の交流の機会や新しい地域価値が創出され、都市住民との共生による持続可能な農業経営が図れていると思われる。 今後も事業計画に基づく取組が効率的かつ円滑に実施され、事業が発展することを期待したい。
本省	東京都	清瀬市	学校法人 日本社会事業大学						●	○	□	A	①取組の実施状況がB評価、②事業実績がA評価、③事業実施体制がA評価であり、A評価が半数以上であり、かつ、C評価がないため総合的評価をA評価とする。 大学構内において、多世代の近隣住民が交流する農的空間の創出を目的に運営協力委員会を開催し、農作業・園芸を通じた世代間交流活動等を実施したことにより、都市住民の農業への理解醸成と新たな地域のコミュニティの場の創出に繋がったと思われる。 今後も事業計画に基づく取組が効率的かつ円滑に実施され、事業が発展することを期待したい。
本省	大阪府	大阪市	辰野株式会社						●	○	□	A	①取組の実施状況がA評価、②事業実績がA評価、③事業実施体制がA評価であり、全てA評価となっているため、総合的評価をA評価とする。 専門家による検討会の開催や都市部の農園視察を開催し、商業地域での都市農園のあり方と運営ノウハウについて経験と知見の集積を行い、これまで駐車場や空き地であった場所にコミュニティ農園を開設し、地域住民が参加するイベントを開催するなど農的空間を創出する取組が進んだと思われる。 今後も事業計画に基づく取組が効率的かつ円滑に実施され、事業が発展することを期待したい。

(注1)「事業実施段階」の凡例: ソフト対策 ○・・・交付対象年度(計画) ●・・・交付対象年度(実施済) □・・・目標年度(計画) ■・・・目標年度(実施済)
ハード対策 ☆・・・交付対象年度(計画) ★・・・交付対象年度(実施済) ◇・・・目標年度(計画) ◆・・・目標年度(実施済)
重点指導 ▼・・・重点指導(通知) △・・・重点指導(結果報告予定) ▲・・・重点指導(結果報告)

(注2)「評価」の区分: A・・・優良 B・・・良好 C・・・低調 評価対象外・・・評価対象外

4. 第三者機関の意見聴取

「農山漁村振興交付金(都市農業機能発揮対策)実施要領」(平成30年3月28日付け29農振第2293号)第15の4の規定に基づき、第三者機関である「農山漁村振興交付金(都市農村交流等)評価委員会」を組織し、評価に当たり意見の聴取を行った。評価委員会の委員及び開催概要は以下のとおり。

【評価委員会 委員】

委員長: 大江靖雄(東京農業大学客員教授)

委員: 市田知子(明治大学教授)、加藤由紀子(北海商科大学非常勤講師)、木村宏(北海道大学客員教授)、森久美子(作家・拓殖大学北海道短期大学客員教授)

【令和7年度評価委員会の開催概要】

第1回評価委員会
1 日 時 : 令和7年7月28日(月) 13:25～16:40 2 場 所 : 農村振興局第5会議室 3 出席委員: 大江委員長、市田委員、加藤委員、木村委員、森委員 4 議事概要 ① 令和7年度評価対象地区の評価方法について 本年度の評価方法について、説明を行い了承を得た。 ② 令和7年度評価対象地区の評価及び取組状況について 令和6年度に事業を実施した16地区の、取組概要、評価案及び今年度の評価対象外ではあるが、昨年度に重点指導対象となっていた1地区の、重点指導結果に関して説明し、質疑応答を行った。 5 主な意見 なし
第2回評価委員会
1 日 時 : 令和7年8月25日(月) 13:30～15:35 2 場 所 : オンライン 3 出席委員: 大江委員長、加藤委員、木村委員、森委員 4 議事概要 ・第1回評価委員会における質問への回答及び評価結果案 令和6年度に事業を実施した16地区の評価案等に関して、了承を得た。 また、今年度の評価対象外ではあるが、昨年度に重点指導対象となっていた1地区の重点指導結果に関して、了解を得た。 5 主な意見 なし

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要
大阪府 南河内郡	令和3年度	農福連携事業者として新たに南河内地域に参入するにあたり、南河内地域とのつながりを持ち、地域に根差した企業になっていきたいという思いから、地域の農業者、地域住民両方との交流が可能なマルシェ事業を行っていく。

※ 事業名や主たる取組名を記載すること。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

実施体制が事業実施に重大な支障を来しており、計画に基づく取組を実施することができなかったことから、総合的評価をCとした。
大阪府南河内地域の生産者の出店不参加が多く、計画に定めた参加型マルシェを開催することができず、当初の目標を達成することができなかった。
今後は、事業計画に基づく目標の達成に向けて、効率的かつ円滑に事業が実施されることを期待したい。

2. 低調と評価された要因

マルシェを夏ごろに開催したものの、葉物野菜等は炎天下で出店してもしなびるのが早く、売り上げに繋がらなかった。また、地域の農家も売り上げが見込めないことを理由に、マルシェ出店への賛同を得られなかったため、当初の目標に掲げていたマルシェの開催回数を大きく下回ってしまった。

3. 目標達成に向けた方策

評価委員会での指導・助言等を踏まえ、目標の達成に向けて以下の取組を実施した。
①近隣農家と連絡を取り合い、収穫量等を確認することで、マルシェの開催を前向きに検討し続けている。
②マルシェは、小規模であっても継続的に開催することで、認知度を高めていく努力を行っている。
不定期だが、月1回以上のペースで商店の店頭の一部を借りて開催している。
③近隣農家からの買い取り、または、自社農園で収穫した農産物は、惣菜製造業者の協力を得ながら、加工品(お浸し、サラダボウル)として製造・販売している。
既に卸売形式で販売を開始しており、今年の秋以降にマルシェでも出品予定である。

4. 改善状況

令和6年度は、昨年までの実施内容を踏まえ、地元企業や農家と連携して、開催時期に応じた青果品を持ち帰り用とその場で食する商品用としてあらかじめ準備するなど、工夫した取組により、小規模マルシェの開催数を増やすことができた。また、加工品の製造・販売を開始したことにより、より地域に根差した企業になったと言えることから、取組の改善が図られたといえる(令和6年度のマルシェ実績:計8回、来場者数60名ほど)。なお、令和7年度においても、住民からの要望が多かったことから、継続的に開催し、都市農業者と都市住民の交流を促進していきたい。

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要
愛知県 知立市	令和5年度	知立市を中心として都市農業における有機農業等の普及及び都市農業者と都市住民が直接触れ合うマルシェの開催など、都市農業者と消費者である都市住民の交流促進のための取組を行う。

※ 事業名や主たる取組名を記載すること。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

実施体制が十分でなく、事業実施に重大な支障を来しており、予定していた取組みを実施することができなかったことから、総合的評価をCとした。
農業者と都市住民の交流の機会は創出したが、事務局において堆肥の保管設備が整わず、落ち葉等を活用した堆肥化事業ができなかったことから、当初の目標を達成できなかった。
今後は事業計画に基づく目標の達成に向けて、効率的かつ円滑に事業が実施されることを期待したい。

2. 低調と評価された要因

計画していた落ち葉等を活用した堆肥化事業について、堆肥の保管設備(堆肥ボックス等)の整備に時間を要し、令和5年12月頃に完成したため、年度内の実施ができなかった。

3. 目標達成に向けた方策

評価委員会での指導・助言等を踏まえ、目標の達成に向けて以下の取組を実施した。
・堆肥の保管設備が完成し、また、同年に公園管理者等の行政との協議が整ったため、本年度から事業を開始した。
・事務局が事業の進捗管理及び連携団体である農協等との情報共有を徹底することで、実施体制を改善した。

4. 改善状況

令和6年度は、計画に定めた落ち葉等を堆肥化する事業を実施することができたことから取組の改善が図られたといえる。回収した落葉等は、剪定枝120袋(8,400ℓ)、落ち葉及び雑草80袋(5,600ℓ)であり、堆肥化した上で、市内4か所の圃場で活用した。他にも、有機農業の普及やマルシェ・イベント等を開催したことから、都市農業への理解醸成が進んだと思われる(令和6年度のマルシェ・イベント実績:計6回、来場者数約200名ほど)。

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要
東京都 日野市	令和5年度	都市農業者や地域事業者と協力し、マルシェ等のイベント開催を通して、都市住民の交流を促進する。

※ 事業名や主たる取組名を記載すること。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

実施体制が整備され、計画に基づく活動が十分に実施されたものの、計画に定めた目標が達成できていないことから、総合的評価をCとした。
マルシェ等のイベントの実施により、都市農業者と都市住民の交流の機会創出を目指したが、当初の目標を達成することができなかった。
今後は事業計画に基づく目標の達成に向けて、効率的かつ円滑に事業が実施されることを期待したい。

2. 低調と評価された要因

マルシェの来場者数、総売上上の事業目標が計画どおり達成されなかったため。

3. 目標達成に向けた方策

評価委員会での指導・助言等を踏まえ、目標の達成に向けて以下の取組を実施した。
①日野市駅前で行ったトマトフェスの開催にあたっては、市内や近隣地域のトマト農家の直売を中心に飲食店等総勢34事業者と連携し、来場者に農産物や都市農業の魅力をアピールする場を作ることができた。また、予想を超える5,000人以上の来場者があった。
②農園内で収穫体験だけではなく、農園の野菜を使った総菜提供、ピザ焼き体験等を提供するファームカミングデーを開催し、農園の多面的な魅力を感じてもらうことができた。
③農園内で開催した直売イベントでは、近隣の農園からも農産物を提供してもらい、ともに販売を行った。市内事業者と開発したトマトドレッシングの販売を行い、完売した。

4. 改善状況

令和6年度は、昨年までの実施内容を踏まえ、マルシェの規模拡大に取り組み、地域事業者との連携を深めるなど、より多くの都市住民に農産物や都市農業の魅力を発信することができた。マルシェの来場者数、総売り上げについても目標値を大きく上回る成果(令和6年度のマルシェの延べ来場者数5,160名、総売上4,000千円)を上げている。